

IAUD Newsletter vol.10 第2号(2017年5月号)

1. 「成田国際空港第3ターミナル UD 見学会」報告.....1
2. 「IAUD アワード2016」受賞紹介④.....3
3. 「IAUD アワード2017」募集開始のご案内.....9
4. 「第6回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」開催レポート公開.....9
5. 国際 UD 会議開催 15 周年記念 予稿集・論文集・講演集 限定セット販売のご案内.....10
6. IAUD 5 月の予定.....10

移動しやすい、わかりやすいターミナル

メディアの UDPJ & 移動空間 PJ 成田国際空港第3ターミナル UD 見学会報告

メディアの UD プロジェクトと移動空間プロジェクトは、3月15日(水)に使いやすいデザインで好評の「成田空港第3ターミナル UD 見学会」を実施し、メンバーら計36人が参加しました。

当日はターミナル内施設を視察した後、会議を実施して見学内容を共有化し、大変有意義な見学会となりました。

今号の Newsletter では、当日の様子をメディアの UDPJ 主査の伊賀公一氏が報告します。



成田空港第3ターミナルチェックインカウンター

UD の視点をもって設計

成田国際空港第3ターミナルは、2015年4月8日に成田空港内に開港された LCC 専用のターミナルで、国際線と国内線が利用できます。限られた予算内で使いやすいデザインを採用しており、ローコストでわかりやすい空港として 2016 年に「グッドデザイン賞」金賞を受賞しています。

この見学会は IAUD 会員の NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)が成田空港株式会社(NAA)様に依頼し、NAA 様のご協力と好意によって開催されたものです。

IAUD からはメディアの UD プロジェクトと移動空間プロジェクトが呼びかけ、さらに「ユニバーサルデザイン研究会」と CUDO 賛助会員有志の「CUD 友の会」も参加しての見学会となりました。

当日の待ち合わせは成田国際空港第2ビル駅改札で、それぞれの団体が互いに簡単な挨拶をして NAA 様の会場へ向かいました。ここからすでに各団体はそれぞれの立場でチェックを開始しました。

NAA 様に貸していただいた会場では当日の見学会の流れの説明を行い、NAA 様からは空港とターミナルの説明をしていただきました。

近年訪日外国人の増加が見込まれ、東京オリンピックの開催や多くのアジア系旅行者の増

加、各国への増便、そして増加するLCC専用の国外・国内ターミナルが求められ、コストをなるべく抑えて設計したこと、しかし工夫をこらすことで移動しやすいわかりやすいUDの視点をもった設計を心がけたことなどをお話いただきました。

アイコンの色で見分ける

その後、14時から15時40分まで空港内見学をさせていただきました。

参加者の数が多くなったために管理上3班に分かれることになりました。なお今回参加いただいた方には、視力や移動の障害をお持ちの方や色弱者の方を含んでいました。

第2ターミナル駅から第3ターミナルまでは730メートルあります。第3ターミナルの出発までの道のりサインは明るい青で示され、飛行機が進行方向を向いている大きな黒背景の抜きアイコンに英語で「Terminal ○○○m」と、ターミナルまでの移動距離が書かれています。



ここでの第2ターミナル行きのサインは明るい緑色です。この2種類はP型やD型の色弱者もはっきりと見分けができる色でした。

このようにアイコンの色で見分けるのは大変便利な機能ですから、他のターミナルや全体がどのような色分けになっているのかを次回は検証してみたいと思いました。

また、ターミナルへ向かう道には、床面に陸上競技場のトラックで使用される滑りにくい材質が敷き詰められ、出発と到着、真ん中の緩衝ゾーンの3つが色分けされています。

こうした誘導にはとかく情報過多となることが多いのですが、情報は整理され大きさや色などの仕様が統一されていますので大変わかりやすかったようです。

天候や日照の変化などでサインの見え方が変化することや、視線が低い方の見え方なども検証が必要だろうということでした。

このターミナルの運営では、ハードに頼ってUDを実践するというものではなく、可能であればなるべく人間によるサービスで解決できるものは解決するという方法を取っている、ということでした。

またサインなどについては、状況の変化や必要に応じたりリニューアルを前提としているという強みがあるということでした。

入出国手続きも特別に許可をいただいて見学させていただきましたが、非常にわかりやすく職員の対応がすばらしいという評価が出ておりました。

見学内容を共有

コースを見学させていただいたあと、振り返りの会議を開き各班の報告を共有化しました。

こうしていろいろな方とともに見学をさせていただくことで、互いに気がつかなかった点も多かったということでした。

各団体は機会をみつけて今後もこのような見学会を企画してゆきたいということでした。(了)



多くの人が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて 「IAUD アワード 2016」受賞紹介④: 金賞 2 件の取り組み

「IAUD アワード 2016」受賞紹介最後となる今回は、金賞を受賞した 2 件の取り組みです。

IAUD アワード 2016 審査委員長のロジャー・コールマン氏（英国王立芸術大学院名誉教授）は、公共空間部門金賞の「インクルーシヴ博物館」（カナダ人権博物館）について、「融合型 UD の好例。インクルーシヴ型の継続的実践例、研究、普及の格好のモデルとなっている。特に、同博物館のビデオガイダンスのユーザー・インターフェイス・デザインはシンプルで、聴覚障害者を含む誰でも直感的に分かるものとなっている」と高く評価しました。

また、サービスデザイン部門金賞の「音のユニバーサルデザイン化支援システム『おもてなしガイド』」（ヤマハ株式会社）については、「多くの訪日外国人を迎えるオリンピック・パラリンピックを 2020 年に控え、おもてなしガイドのシンプルさと実用性を高く評価した」としました。

今号の Newsletter では、「インクルーシヴ博物館」をカナダ人権博物館の Corey Timpson 氏に、「音のユニバーサルデザイン化支援システム『おもてなしガイド』」を、ヤマハ（株）新規事業開発部 Sound UD グループの石田哲朗氏に紹介していただきます。

※これまでの「IAUD アワード 2016」受賞紹介は、こちらをご覧ください。

「IAUD アワード 2016」受賞のご紹介① IAUD Newsletter vol.9 第 10 号（2017 年 2 月号）

<https://www.iaud.net/newsletter/8478/>

「IAUD アワード 2016」受賞のご紹介② IAUD Newsletter vol.9 第 11 号（2017 年 3 月号）

<https://www.iaud.net/newsletter/8505/>

「IAUD アワード 2016」受賞のご紹介③ IAUD Newsletter vol.10 第 1 号（2017 年 4 月号）

<https://www.iaud.net/newsletter/8570/>

※「IAUD アワード 2016」受賞結果は、こちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8109/>

※「IAUD アワード 2016」審査講評は、こちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8077/>



世界で最も UD が進んだ博物館

公共空間部門金賞:「インクルーシヴ博物館」 カナダ人権博物館

UD を最優先に取り入れた建築

2014 年 9 月、カナダ中央に位置するマニトバ州の州都ウィニペグ市に「国立カナダ人権博物館」がオープンしました。

当博物館建設の早い段階で、私たちには、世界で最もバリアフリー化が進んだ博物館を作り上げるための素晴らしい機会に恵まれていることが分かりました。

多くの場合、バリアフリーについては建築デザイン時ではなく、事後にようやく考慮されます。し



幾重ものガラスの壁と高い塔が特徴の
カナダ人権博物館

かし、当博物館では、私たちには最初からバリアフリーについて考える機会があったのです。

私たちは、単にバリアフリーというだけではない施設を作りたいと思っていました。UDを取り入れた博物館、すなわち障害の有無や背景に関係なく、どなたにでもご利用いただける施設を建設したいと考えました。

この取り組みにより、多くの肯定的な結果がもたらされています。第一に、財政面の責任が徹底され、資源の効率的な割り当てが保証されています。第二に、社会的一体化を果たす組織文化の醸成が促進されています。最も重要なこととして、UDを最優先に取り入れることにより、当博物館がどなたにも利用しやすい施設となっています。

これらの目標を達成するため、私たちは外部からの意見を取り入れる必要があると考えました。当博物館は、この目的のために組織した「インクルーシヴデザイン諮問委員会（IDAC）」の取り組みの恩恵を受けています。

IDACは、障害者の人権を分野とする専門家、顧問、および活動家で構成され、バリアフリーおよびインクルーシヴデザインに関連する広範囲な問題に関する分析を行い、これらの問題に関する認識の違いを特定して、当博物館に意見を寄せてくれます。

インクルーシヴデザインが完成することはないため、当博物館は、今日でもIDACとの協力を続けています。むしろ、当博物館とスタッフ、来訪者、より幅広い一般大衆との間で続いている対話なのです。

環境に違和感なく溶け込んだ様々なUD機能

私たちがUD導入の経験から得た重要な教訓として、博物館のバリアフリー化には「手っ取り早い方法」は存在しないということが挙げられます。

私たちのUDでは、最先端の技術を使用しているものもあれば、非常にシンプルでありながら、極めて革新的で重要性の高いものもあります。

もう一つの重要な教訓は、インクルーシヴデザインは、可能な限りより大きな環境に違和感なく溶け込む必要があるということです。

当博物館では、来訪者の皆さまがインクルーシヴデザインの特徴を探し出さなければ、それらが存在することに気付くこともなく、自らがインクルーシヴデザインの特徴を利用していることにも気付くことはないでしょう。

もちろん、一部の特徴は非常に分かりやすいものとなっています。例えば、博物館のほぼすべてのギャラリーには、タッチスクリーン式のスタンドが設置されています。このスタンドには、写真や動画を含め、展示物に関する魅力的な情報を満載しています。

ただし、訪問者の方が視覚に障害をお持ちの場合、または歩行が困難な場合、このスタンドの利用が困難となります。

そこで私たちのユニヴァーサルキーパッド（UKP）が役に立ちます。



人権についての著名人の記述を展示したコーナー



デジタルインターフェースにアクセスするUKP

UKP は、スタンドの情報にアクセスするための、分かりやすいマークと音声による手引きを使用した触覚キーパッドです。UKP は、音量を調節できるよう、ヘッドフォンの差込口も備えています。

もう一つの革新的な電子技術は、ユニヴァーサルアクセスポイント(UAP)です。

UAP は、UKP が対応していない機能、すなわち博物館のギャラリーで展示されているテキスト、画像、および工芸品を説明する役割を担っています。

UAP はそれほど素晴らしいものには見えません。単に数字とそれに対応する点字が表示された小さな四角い金属にしか見えません。ただし、その地味な見た目に騙されないでください。訪問者の方は、無線端末にインストールされた当博物館のモバイルアプリに UAP の数字を打ち込み、実際の展示物の前に掲げられている説明を聴くことができます。

UAP によっては、米国式手話(ASL)およびケベック式手話(LSQ)での説明を見ることができます。当博物館のいたるところにこれらの UAP が 120 台以上設置されています。

モバイルアプリ自体は、UD に対する私たちの取り組みの結果、製作されたものです。

UAP の情報以外に、モバイルアプリには対話型のギャラリーの地図および完全バリアフリー対応のガイドなしツアー機能が備わっています。このツアーは、ASL および LSQ の両方でも利用可能です。



展示内容情報にアクセスできるモバイルアプリ

最後に重要なこととして、モバイルアプリは拡張現実機能を搭載しています。この機能により、当博物館の「希望の塔」や、当博物館のそばを流れるレッド川を見下ろすテラスから見える町の風景を楽しむことができます。

当博物館の展示物自体にも多くの技術が使用されています。

たとえば、ギャラリーでは来訪者の方が閲覧可能な 100 時間以上の動画が準備されており、すべての動画はフランス語と英語のナレーションが付けられています。

さらに、これらの動画にはすべて手話の映像と字幕が添えられており、多くの動画では、画面に映っている内容を説明する解説機能を使用することもできます。

これらの機能の準備には多くの作業時間を要しますが、私たちは最初から完全バリアフリーの導入が必要であることが分かっていたため、作業は円滑に進みました。

もちろん、当博物館のすべてが最先端技術に頼っているわけではありません。多くの機能は、単に優れたデザインを選択した結果もたらされたものです。これらのデザインの選択により、来訪者の方が博物館の技術を活用しやすくなっている場合もあります。

たとえば、各 UAP の近くの床面には「停止柵」を設けており、視覚に障害のある方が UAP の存在に気付くことができます。

また、展示ディスプレイおよびデジタルタッチスクリーンの高さや、テキストの大きさおよび字体についても、最もバリアフリーが進むよう選択されています。

どなたにも博物館での素晴らしいひと時を

当博物館では、展示物だけがバリアフリー対策を施されているわけではありません。博物館のすべてのベンチにはひじ掛けと背もたれが備わっており、これらが必要な人々の役に立っています。

博物館のギャラリーを縦横に行き交う 800 メートルにも及ぶ「光る回廊」も重要なバリアフリー

機能を果たしています。表面が半透明の石膏で覆われたスロープになっており、見学者はこの回廊を歩きながら見てきた展示フロアの全体を振り返って俯瞰出来るようになっていきます。

この回廊のおかげで、来訪者の方々は階段を使用することなく 10 種類の主要ギャラリーをすべて観て回ることができます。

回廊には、身長異なる方々向けの二重手すりが設置されており、休憩のための踊り場が等間隔で設けられています。もちろん、エレベーターで建物の各階に移動することもできます。

最後に重要なこととして、私たちの UD 導入の取り組みは、博物館のオンラインでの紹介にも及んでいます。

ソーシャルメディアで当博物館をフォローすると、共有している写真には必ず説明が付けられていることが分かります。また、できるだけ多くの動画に対し、できるだけ早い段階で耳の不自由な方のために字幕も付けているほか、当博物館のウェブサイトも完全バリアフリーとなっています。

<https://humanrights.ca/>



バリアフリーの「光る回廊」

カナダ人権博物館は、2016 年 12 月に「IAUD アワード 2016」金賞を受賞しました。

私たちは自らが実現したことに誇りを持っており、どなたにも素晴らしい博物館でのひと時を過ごしていただけるよう、より一層の努力を続けてまいります。(了)



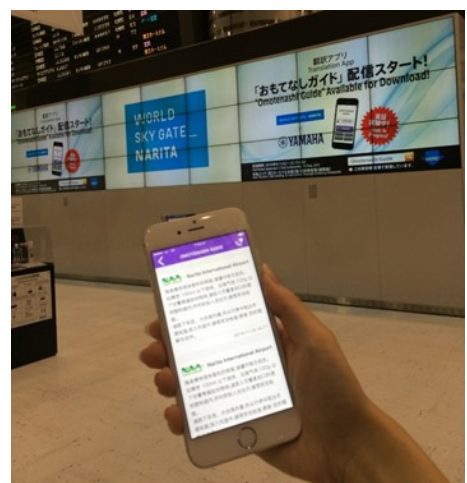
音声情報が平等に伝わる世界の実現を目指して
サービスデザイン部門金賞：
音のユニバーサルデザイン化支援システム「おもてなしガイド」
ヤマハ株式会社

アナウンスの内容をスマホに表示

おもてなしガイドは、「日本語がわからない」「聴くのがむずかしい」といった理由で、アナウンスなどの音声の内容が分からない訪日外国人や聴覚障害者のための「音のユニバーサルデザイン化支援システム」です。

対応しているアナウンスやナレーションなどをスマートフォンに聞かせるだけで、内容が日本語でも外国語でも、その人の分かる言語で確認できるようになります。

音を使って情報の伝達を行うため、災害時や大規模イベントなどのインターネットなどが繋がりにくい環境でも利用することが可能です。



スマホで利用できるおもてなしガイド



音声情報の伝達に関する課題を音の技術を使って解決

様々な UD に関する活動がある中、アナウンスなどの音声情報に対して、言語や聴力の違いにも考慮した取り組みはほとんど進んでいないのが現状です。

ヤマハが 2016 年 3 月に訪日外国人 387 名を対象に実施したアンケート調査では、日本語がわからず困ったことのある外国人は 81.6% に上りました。

特に、「困ったシチュエーション」の上位 3 件は、「(観光地やテーマパークの)ショーやアトラクション」「会話」「アナウンス」という結果を得ており、音声情報の伝達に関する課題は明らかなものになっています。(詳細は下図を参照)

このような課題を、ヤマハが持つ“音”の技術を使って解決することを目指し、これまでに様々な実証実験を進めてまいりました。

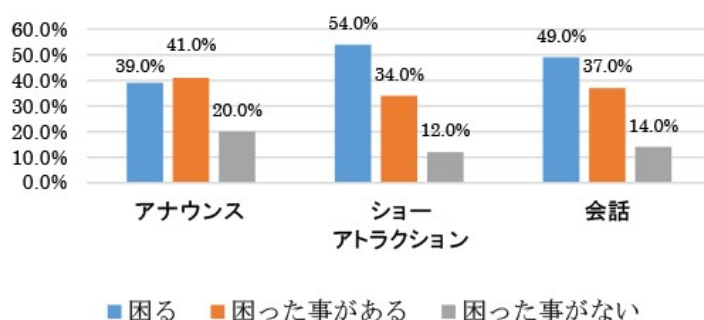
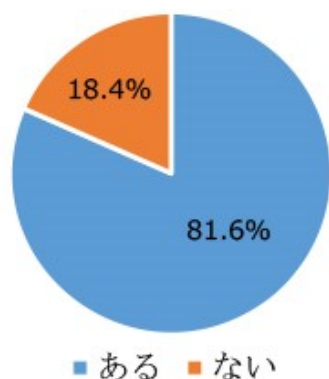


おもてなしガイドアプリ使用の様子
(成田国際空港保安検査場付近)

アンケート調査結果(抜粋版)

Q.訪日中、日本語がわからず困ったことはありますか？

Q.どういったシチュエーションで困りましたか？



(n=387)

調査方法: 全国の空港、鉄道、バス、商業施設、商店街、テーマパークなどの実証実験実施場所付近に調査員を派遣し、訪日外国人を対象としてアプリケーションを体験して頂いたのち、アンケートを取得。

音のユニバーサルデザイン拡大に向けた取り組み

①民間企業、自治体との連携

2016年度6月より京都府、京都市、国立研究開発法人情報通信研究機構（以下、NICT）と、音のユニバーサルデザイン化支援システム「おもてなしガイド」を活用した初の官民連携による地域社会実証「京都 Sound UD プロジェクト」を実施しました。

このように、ヤマハのみならず、アナウンスを流す施設を有する様々な民間企業、自治体と共同でおもてなしガイドが利用できる対応スポットを拡大していきます。



京都 SoundUD プロジェクト記者発表会の様子

②ユーザー調査によるユーザビリティ・機能向上

訪日外国人、聴覚障害者の方々を対象としたユーザビリティ調査を実施し、誰にとっても使いやすい、利便性の高いシステムとなるよう継続した改善を行っています。



ユーザビリティ調査 アプリ利用の様子



グループインタビューの様子

③放送機器メーカーとの技術連携

おもてなしガイドを実現するための技術をオープンソース化し、様々な放送機器メーカーと共同開発を行うことで、簡単におもてなしガイドが導入できるような環境を作るとともに、新たな音の通信方式の共通規格化に向けた展開を行っています。



おもてなしガイドとの連携を発表したアナウンス関連企業、研究機関

このような取り組みを引き続き継続し、省庁、自治体、民間企業など様々な関係者と連携を図りつつ、より公共性の高いサービスとしておもてなしガイドを展開することで、いつでも、どこでも、誰にでも音声情報が平等に伝わる世界の実現を目指してまいります。(了)



多くの人が快適で暮らしやすい UD 社会の実現を推進

IAUD アワード 2017 募集開始のご案内

IAUD は、UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体や個人を表彰する「IAUD アワード 2017」を、今年も実施いたします。

UD において一定のレベルを満たしていると審査委員会が判断したものに対して「IAUD アワード」を授与し、「IAUD アワード」マークを UD の普及啓発のために使用できます。

また、「IAUD アワード大賞」、IAUD 総裁「特別賞」、部門別の「金賞」「銀賞」などを予定しています。

第 1 次審査の応募締め切りは 7 月 18 日(火)です。 昨年 12 月の「IAUD アワード 2016」表彰式
皆様の応募をお待ちしております。 (名古屋国際会議場)

「IAUD アワード 2017」詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8600/>



世界 30 ヶ国から約 12,000 名が来場

第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」開催レポート公開

2016 年 12 月 9 日(金)から 11 日(日)までの 3 日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)で開催された「第 6 回国際ユニバーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」の開催レポートが公開されました。

基調講演やセッション、特別報告、併設展示会などの開催内容が掲載されています。ぜひこちらよりご覧ください。

<https://www.iaud.net/conference/8665/>



開催レポート

国際 UD 会議の集大成

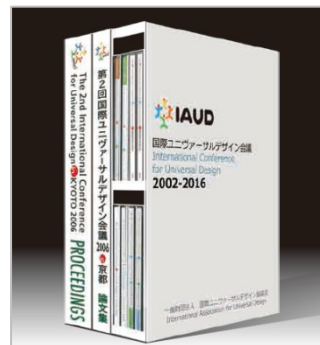
国際 UD 会議開催 15 周年記念 予稿集・論文集・講演集セット 限定 200 組販売

IAUD はこの度、国際ユニヴァーサルデザイン会議開催 15 周年を記念して、これまで実施した 6 回の国際 UD 会議で作成した予稿集・論文集・講演集セットを、限定 200 組販売いたします。

セット内容は CD-ROM12 枚と書籍 2 冊です。是非この機会にお買い求めいただき、学際的、業際的な広がりを見せる UD の国際的知見に触れていただき、皆様の研究開発の一助になることを願っています。

お申込み・詳細は以下をご覧ください。

<https://www.iaud.net/conference/8520/>



予稿集・論文集・講演集セット



2017 年 5 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 子供の日	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン 17:00～ 研究部会 @NEC 本社ビル	19	20	21
22	23	24	25 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	26 13:30～ 標準化研究 WG @IAUD サロン 13:30～ 手話用語 SWG @六本木ティー キューブ	27	28
29 13:00～ 研究部会 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	30	31				

無断転載禁止

次号は 2017 年 6 月発行予定 特集: ロンドン・デザインミュージアム展示会出展ほか

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン): 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: info@iaud.net